

# 子どもにとって 必要なこと

アン＝ロール・オヴィズ

(安發明子翻訳、加藤剛日本語版作成)



# CONTENTS

---

子どもの権利条約	1
子どもの基本的ニーズ	2
1 生理的ニーズと健康	3
2 守られるニーズ	5
3 愛情と関係性のニーズ	7
A 経験を重ね冒険し世の中を知るニーズ	9
B 枠組みとルールのニーズ	14
C アイデンティティの形成ニーズ	16
D 自尊心と自身の価値を認められること	18



この冊子は2025年8月16日に開催されたオヴィズ エducateurによる研修をもとに作成されています。内容は保健省による指針である「子どもにとって必要なこと」« Démarche de consensus des besoins fondamentaux de l'enfant en protection de l'enfance »(2017)及び、家族支援全国連盟CNAPEによる実践ノート« Fiches Pratiques: Les besoins fondamentaux des enfants »(2023)を要約して紹介しています。全国の親子支援をするエducateurはこの指針をもとに子どものニーズについて親子と話します。日本における虐待アセスメントに当たります。

# 子どもの権利条約

子どもの権利条約（CIDE）は、4つの重要な原則を掲げています。それは、「差別の禁止」、「子どもにとっての関心を最優先すること」、「生きる権利・生存・発達の権利」、そして「子どもの意見の尊重」です。この条約は全54条から成り立っており、その中でもいくつかの条文は子どもの保護において特に重要です。

第3条には、「子どもに関わるすべての決定において、子どもにとっての関心が最優先で考慮されなければならない」と定められています。子どもにとっての関心を最優先にするということは、その基本的なニーズ(必要なこと)が他の人、つまり親などのニーズよりも優先して追求・満たされなければならないことを意味します。

第9条では、原則として子どもが両親と一緒に暮らす権利があることが規定されていますが、もしそれが子どもにとっての関心に反する場合、たとえば親が悪い扱いやネグレクトをしているような場合には、分離されることが必要だとされています。

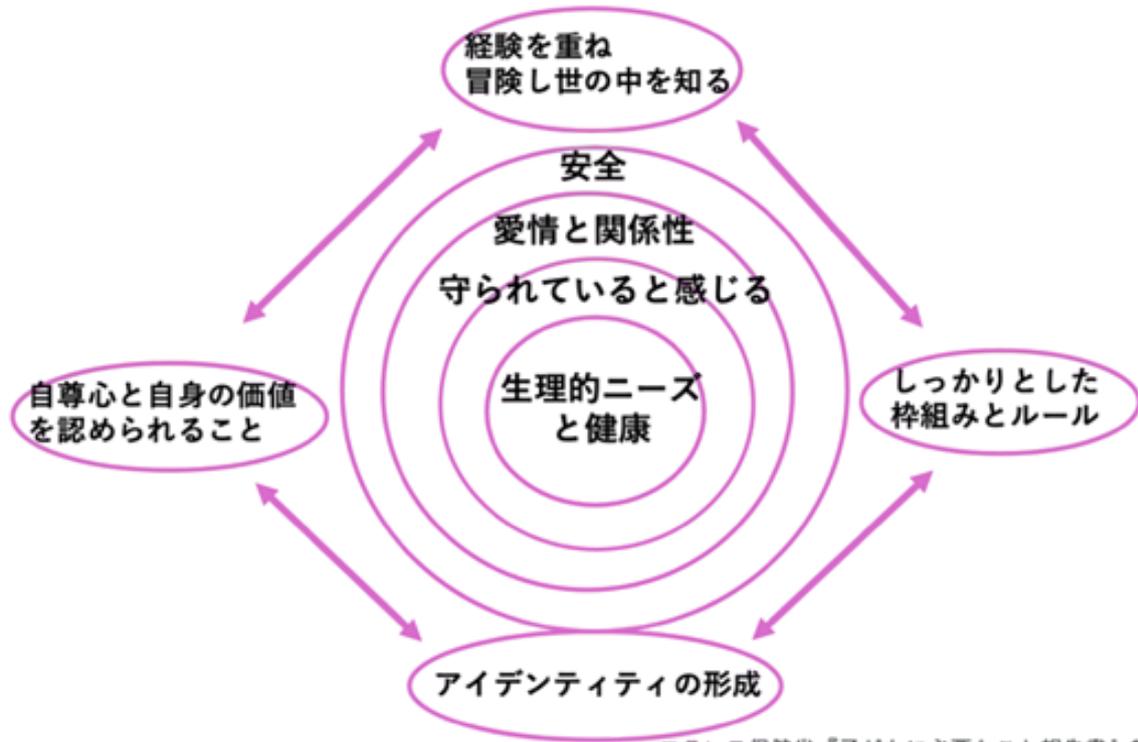
例えば、子どもが安全に発達できる環境の中で生活する必要と、家族とのつながりを維持する必要の間で選択しなければならないような状況があります。その際、子どもにとっての関心が、どのニーズを優先的に満たすべきかを判断する基準となります。

第12条では、判断能力を有するすべての子どもについて、「自分に関わるすべての問題について自由に意見を表明する権利」が保障されると書かれています。

第19条では、子どもをあらゆる形態の暴力から保護するために、適切なあらゆる措置を講じることが求められています。

第31条では、「締約国は、子どもが休息し、余暇を楽しみ、年齢に合った遊びや活動をし、文化や芸術に自由に参加する権利を認める」と定められています。

# 子どもの基本的ニーズ



フランス保健省『子どもに必要なこと報告書』2017

« Démarche de consensus des besoins fondamentaux de l' enfant en protection de l' enfance », 2017

最重要である安全ニーズは以下3つを包含します

1

生理的ニーズと健康

2

守られるニーズ

3

愛情と関係性

# 1

## 生理的ニーズと健康

子どもには、年齢にかかわらず、その「包括的な健康」に注意が向けられる必要があります。健康とは、単に病気がないことや身体機能が正常であることにとどまりません。健康や発達には、言語的・感情的・行動的な「思考や表現のあり方」も含まれます。

### 子どものニーズ

- 栄養を与えられ、身体や口腔の衛生をきにしてもらい洗ってもらうこと
- 年齢に応じて、規則正しいリズムで十分な量と質の睡眠をとること
- 清潔な衣服を着用し、気候に合った服装をすること

以下も重要：

- 健康のチェックや医療サービスへのアクセスがあること（聴力・視力・身長体重の成長曲線の確認、歯科治療など）
- 一時的または慢性的な健康問題へ対応されケアされていること
- ティーンについては、健康教育の観点から必要な情報提供へアクセスができること(性について、病気、アルコールやドラッグについてなど)



## 家族支援の中で考えるべきポイント：

---

両親は子どもの健康を気にしているか？健康に関する親の基準や価値観はどのようなものか？

子どもの健康状態はどうか？（元気、短期的あるいは慢性的な病気、外傷、トラウマ、精神的状況等）

子どもに発達課題、トラブルが見られるか？障害があるか？

子どもに義務付けられている健康診断は受けているか？

健康診断の結果に基づく医療的な助言についてフォローは実行されているか？

子どもに依存傾向はあるか？（アルコール、たばこ、薬物、ゲーム、スクリーン依存など）

子どもは（年齢に応じて）自分の健康に注意を払っているか？

## 子どもの生理的ニーズの尊重について考えるべきポイント：

---

- 子どもに食べ物に関するトラブル（拒食症、過食症など）は見られるか？
- 子どもに睡眠トラブル（不安、不眠、夜尿など）があるか、または睡眠不足に関連する問題（感情の不安定さ、行動トラブル、成長・注意力・学習のトラブルなど）は見られるか？
- 子どもの睡眠リズムは規則正しいか？就寝時に儀式的な習慣（読み聞かせなど）が行われているか？
- 乳幼児の場合、入浴やおむつ替えはどのように行われているか？
- 子どもは自分のケアをすることを身につけているか（トイレ、歯磨き、手洗いなど）？
- 子どもは自分の体に関心を持っているか？自分の体を受け入れているか、あるいは否定的に捉えたりネグレクトしたりしていないか？

# 2

## 守られるニーズ

子どもは、あらゆる形態の悪い扱いから守られなければなりません。身体的・性的・心理的暴力、両親間の暴力の目撃、そしてネグレクトが含まれます。

例：

- 子どもはまわりの大人のことを安心した言葉で表現している
- 親は子どもを誰とでも一緒にいさせない。親が子どもがどこにいて、誰と一緒にいるのかを把握している。
- 親は子どもにインターネットやSNSを自由に使わせない。アニメも含め何を見ているかコントロールしている。

子どもにとって必要なもう一つの「保護」は、外部環境や家庭内環境でケガや被害から守ることです。

子どもへの質問例：

- これまでに不安だったり、危ないと感じたりしたことはある？
- とても怖い思いをしたことはある？
- 大ケガをしたことはある？どんなときだった？



## 家族と関わる中で考えるべきポイント：

---

- 親は自分の子どもにとってリスクになりうる状況を理解し、適切に予防する力を持っているか？もしそうでない場合、親がそのリスクを理解し予防するために活用できる外部のリソースはあるか？(頼りにできる親戚、家族、ソーシャルワーカー、保健センター等)
- 子どもを守るために親は誰のサポートを受けているか？
- 暴力のない教育（身体的にも心理的にも）について、親や家族と話し合うことができるか？
- 子どもに「守られるニーズが満たされていないサイン」「ネグレクトや虐待を受けているサイン」は見られるか？(身体的成長が遅くなっている、衛生面、自傷のあとなど)
- 子どもに「守られるニーズが満たされていない」ことに由来するトラブルや課題は見られるか？ 保護の欠如・ネグレクト・虐待と関連するかもしれない、入院や対応の過去があるか？
- 子ども個人としてのプライベートはどのように守られているか(一人になれる空間が尊重されているか)？
- 教育は身体的・心理的な暴力を伴うものではないか？
- 両親間の関係性、親と子どもの関係性は、温かい見守りと思いやりのある環境・状況の中で築かれているか？

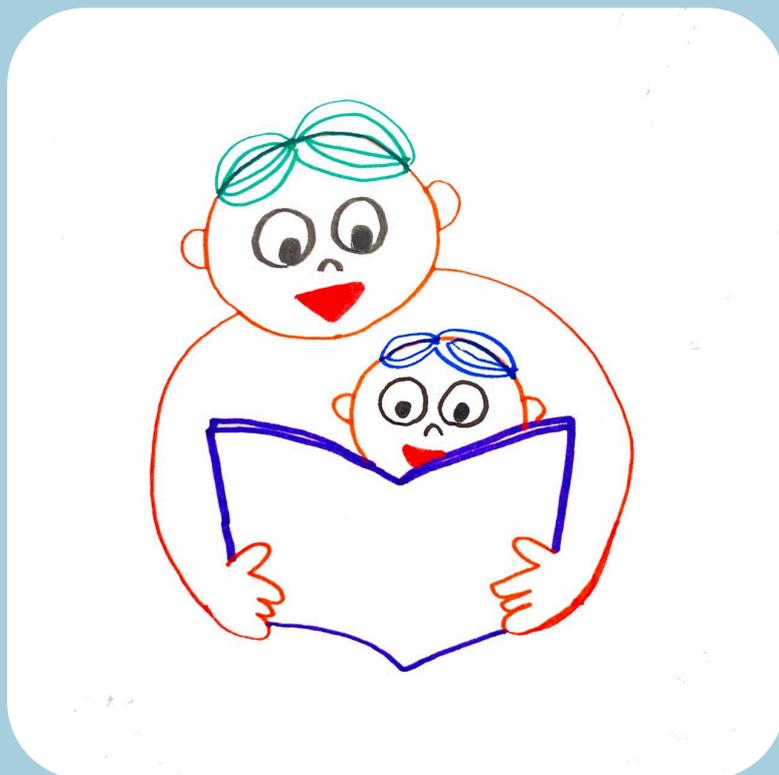
# 3

## 愛情と関係性のニーズ

子どもは、自分に関心を持ってくれる大人（ケアギバー）のまなざしの中で、自分が大切にされ、重要な対象として存在していると感じる必要があります。

子どもには、複数の人との安定的で信頼できるアタッチメント関係が必要であり、たとえ困難な感情を表現しているときでも、「理解されている」「慰められている」「励まされている」と感じる必要があります。この関係性があることで、子どもは自己肯定感を築き、他の人を信頼する力や探索する力を育てていきます。これは、内面的な安全と将来の自立の基盤になります。

大人は「安心でき」「安定した」「支えとなる」人間関係の枠組みをつくる必要があります。それは、単にそばにいただけではなく、感情面でも常に子どもに寄り添い、大人が子どもの愛情面でのニーズに応えられることが求められます。そのような大人の対応は、子どもによる怒りや拒絶、混乱があっても、一貫していなければなりません。



## 敏感なケアギバーとは、以下のような行動ができる人を指します：

---

- 赤ちゃんや子どもの発するサインや表現を「聞き取り」「感じ取る」ことができる
- それらのサインを「理解し」「読み取る」ことができる
- そして、適切に応答することができる — つまり、赤ちゃんや子どもを安心させ、落ち着かせるような反応を返す
- この応答は、適切なタイミングで行われる必要があります。つまり、赤ちゃんが「呼びかけたこと」と「反応が返ってきたこと」を結びつけて、「原因」と「結果」の関係を理解できるようにすることが大切です。

敏感なケアギバーは、次の3つの条件を満たす必要があります：

- いつでも応じられる
- 対応が安定していること
- (子どもにとって)予測可能であること

## 親に対して：

---

質問：「お子さんが調子がいいとどのようにわかりますか？」  
「そういうときお子さんの調子が悪いとわかりますか？」  
「その時、どのような対応をしていますか？」  
「お子さんとの関係性をどのように表現しますか？」

面談時の観察：子どもの前で愛情表現をしているか？

## 子どもに対して：

---

小さな子どもの観察：子どもは親のことを見ているか？子どもは親の方を向くか？親がいるときに子どもは探索行動をするか？

絵を描く：「自分にとって大切な人を絵に描いて」

質問：「元気がないとき、誰に話す？」  
「誰を頼りにしている？」

「自分は誰にとって大切な存在だと思う？」

# A

## 経験を重ね冒険し世の中を知る ニーズ

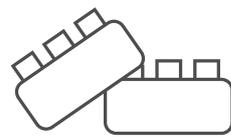
経験を重ね冒険し世の中を知ることで、子どもが自分を知り、自分を理解し、自分を取り巻く環境に参加し、自分の興味や好みを発見し、能力や才能を伸ばします。

年齢や生活条件、勉強ができるできないにかかわらず、子どもには以下の経験をする必要があります。



### 身体的な経験

スポーツや演劇など運動や活動に参加することにより、筋力、持久力、自己内のコーディネート、器用さ、エンゲージメントをすること(最後まで参加し役割を担う)、ルール、チームで協力し合うことを身につけることができる。



### 遊びやクリエイティブな経験

文化活動や、屋外活動などに参加し、探求し、手を使って試し、組み立て、構築し、真似をして遊ぶ必要があります。これらを行うことで、子どもが自分の考えを整理し構築し表現し、自分の感情を自覚し表現し、時間や空間、量、原因と結果などの概念を身につけることができます。



### 表現的・言語的な経験

言葉の意味を身につけ、想像し、物語を聞いたり語ったりし、身ぶりや遊びのなかで、さまざまな感情、人間関係、言葉について発見する。質問され、話しかけられ、「聞いてもらい」「理解される」ことを学ぶ。



### 認知的・思考的な経験

形や色、長さや数、空間の意味を身につけ、計算し、つながりを見つけ、比較し、分類し、疑問を持ち、考え、解決策を提案し、問題を解決することを身につける

## あらゆる年齢の子どもについて考えるべきポイント

---

- 子どもは探索をしているか？自分の周りの空間をどのように使っているか？(大人にくっついて離れない、または何も心配せず遠くまで行ってしまふことがないか)
- 子どもは遊んでいるか？一人で？大人と？親と？同年代の友達と？
- 子どもはおもちゃを持っているか？
- 子どもは自由時間をどのように過ごしているか？習い事があるか？レジャーがあるか？リラックスの時間はあるか？
- 子どもは自分のしたい活動を自由に選んでいるか？子どもは自分からその活動に取り組んでいるか？子どもは本当にその活動に興味を持っているか？それとも強制されているか？
- 子どもがおこなっている活動に取り組む動機は何か？楽しさを感じているから？それとも親をがっかりさせたくないから？
- 子どもは自分の興味や好みを伸ばすことの応援を大人から得ているか？
- 子どもは学校の勉強や活動を親に支えてもらっているか？自分で選んだ活動について親に支えてもらっているか？
- 子どもが取り組むことについて、評価や承認を十分受けているか？（勉強、レジャー、スポーツなど）
- 子どもは過去に否定されたり、侮辱されたり、敬意を欠かれる対応を受けたりした経験があるか？

## 幼児（赤ちゃん）に関して考えるべきポイント

---

- 赤ちゃんには、探索するとき頼れるアタッチメント対象がいるか？
- 赤ちゃんは物を触ったり、食べてみたりしているか？
- 赤ちゃんは自由に動いて、探索したり物をつかんだりすることができる環境にいるか？
- 赤ちゃんは十分好奇心があるか？

## 子ども（6～11歳）に関して考えるべきポイント

---

- 子どもは自分のことについて自立した行動をしているか？(自分で読んで楽しめる、自分で勉強に取り組んだり遊んだりできる、わからないことを本で調べたり大人に聞いたりして解決できる、レゴなど自分でイメージしたものを作ろうと自分で取り組める、想像しながら遊ぶことができる、知っている公園などを探検する、近所であれば自分で行き来できる)
- 子どもは周りの世界に興味を持っているか？
- 子どもは好奇心があるか？

## ティーンエイジャーについて考えるべきポイント

---

- ティーンは自立しているか？  
(意見交換のときに自分の意見が言える、自分の立場を表現し反対意見に対し主張ができる、スポーツや学校などこの空間でも参加し仲間の中に自分の場所をつくることのできる、ボランティアなど市民活動に自ら参加している、公共交通機関などを使って一人で移動できる、外出や約束の予定を自分で立て準備しオーガナイズできる、進路や職業選択についてよく考え自分で選択できる。自立というのは大人の意見に左右されることなく、頼ることなく自分の考えで選択できること)
- どの程度の自立が許容されているか？
- ティーンは自分で意思決定をしているか？意思決定をする機会はどれくらいあるか？
- ティーンは新しい出会いや新しい活動に積極的かつオープンか？(消極的なのは心配なサイン)
- ティーンは同年代の仲間の中でどのような位置を得ているか？
- ティーンは与えられた枠を超えるような行動をとることがあるか？どのように？
- ティーンは自分を危険な状況にさらすことがあるか？どのように？
- ティーンは自分の周囲にロールモデルとなるような人、頼りになるような人がいるか？それは誰か？
- ティーンは「演じる」ことができるか？(自分が傷つくことなく演劇のように何かの役割を演じて対応することができる)
- ティーンはユーモアがあるか？誰かに冗談を言われた時に馬鹿にされていると感じることがあるか？

## 家族に対して、あらゆる年齢の子どもについて考えるべきポイント

---

- 親は子どもが活動をするよう支え、十分刺激を与えているか
- 親は子どもに過度の刺激を与えていないか
- 親は子どもと一緒に活動をしているか？
- 親は子どもの活動に対してどのような期待を持っているか？  
(楽しみ、喜び、発見、成功や成果、良いパフォーマンスをすることの要求など)

## 家族について、乳幼児に関して考えるべきポイント

---

- 赤ちゃんはアタッチメント対象（養育者）から離れることができるか？
- 親は赤ちゃんの探索の時間にそばにいるか？
- 親は赤ちゃんの探索を支えているか？
- 親は赤ちゃんが探索する際に守ろうとするか？(危険がないか常に気にしているか)
- 赤ちゃんは家庭外の人間関係（保育園など）にアクセスがあるか？
- 家庭環境は赤ちゃんが安全に探索できる環境か？
- 親は赤ちゃんに物語を話して聞かせているか？



## 家族について6～11歳の子どもに関して考えるべきポイント

---

- 親は子どもが選んだ活動をするよう支えているか？
- 子どもは家庭外の人間関係が築ける場所（学童や児童館、スポーツクラブ、文化施設など）にアクセスできているか？
- 親は子どもに習い事をするよう励ましているか？親は子どもに刺激が得られる場を与えているか？
- 親は子どもに過剰な刺激を与えていないか？(休む時間がある、何もなくていい時間があること)
- 親は子どもと一緒に活動を楽しんでいるか？
- 親は子どもの活動に対してどのような期待を持っているか？  
(楽しみ、喜び、新しい発見、成功や成果、パフォーマンスの要求など)

## 家族についてティーンエイジャーに関して考えるべきポイント

---

- ティーンは、一人で活動（友達との外出、スポーツや文化活動など）に出かけることを許されているか？
- 親はティーンに意思決定をさせているか？
- 親は新しい経験に対してティーンに制限を設けているか？(親は子どもに、さまざまな状況についてルールを決めつけるのではなく十分話し合う機会を持っているか。例えば、初めて誰かの家に行くときはよく知っている人と一緒に行き一人で行かないなど。事前に親と話し合うことをせずティーンが一人で新しい経験をするのではなく、親が準備を手伝っていること)

# B

## 枠組みとルールのニーズ

ルールは、子どもを危険な経験や不適切な経験から守るためであり、子どもが先々自己調整できるようになるために、指標やあり方、やり方を身につけることが目的です。

試行錯誤（トライアンドエラー）によって自分の方法を見つけ、自由の中で生きる能力を身につけられるためには、柔軟な枠組みが必要です。その枠組みによって子どもの安全を確保しつつ、他者と自分自身への尊重のもとで自分の生き方の実験を繰り返すことができます。それが子どもの自立を支える教育的な環境です。

枠組み(制限)がない場合や、逆に過度に厳格だったり過保護な場合は、子どもや若者の自立学習はおこなえません。

### 子どもにとってのニーズ：

- 行動のルールや、越えてはならない制限について、適切で常に一貫した対応を受けられること。日常のルーティンが、ルールを守ることを助ける。
- 大人の行動を手本にできること。子どもは言葉で教えられるよりも、大人の行動を見て学ぶことが多い。
- 自分の感情が認められ、大人に支えられながら、感情について社会的に受け入れられる行動へと移れるよう練習できること。

### 考えるべきポイント：

- 子どもの大人に対する態度はどうか？大人を尊敬しているか？
- 子どもの同年代の友達に対する態度はどうか？
- 子どもは自分の感情をコントロールできているか？フラストレーションや禁止事項を受け入れられているか？拒否されたときに感情を爆発させることはあるか？
- 子どもはスポーツや集団活動に参加しているか？ルールを内面化できているか？

## 家族について考えるべきポイント：

- 親は子どもに対して明確な枠組み（ルールや制限）を設定し示しているか？
- 親はその枠組みの重要性を理解しているか？
- 枠組みがあることで子どもは安心できる。安定して一貫した指標をもたらすため。
- 枠組みがあることで安心して社会生活を構築できる。子どもは社会の中で人と共に生きることを学べる。
- 枠組みがあることで守れる。子どもが危険な目にあうことを回避できる。
- 枠組みがあることで、子どもは枠組みを尊重し、使いこなし、成長できる。
- 枠組みは権威的ではない。一貫したものであっても、温かい見守りであることができる。
- 枠組み、ルールや制限は安定して守られているか？
- 親は設定した制限について一貫して厳格に対応できているか？
- ルールや制限は子どもの年齢に合ったもので、矛盾なく、適切か？子どもの年齢や成長に応じて変化し、子どもに責任感を育てる形になっているか？
- 親は子どもとオープンな話し合いができているか？
- ルール違反があったとき、親は教育的な対応をしているか？
- ルールを違反した時、子どもに説明がされているか？枠組みについて親子間で話し合いがなされているか？
- 教育は暴力的でない方法で行われているか？
- 親の行動は枠組み（社会生活のルールの尊重）を理解し守る役割を果たしているか？

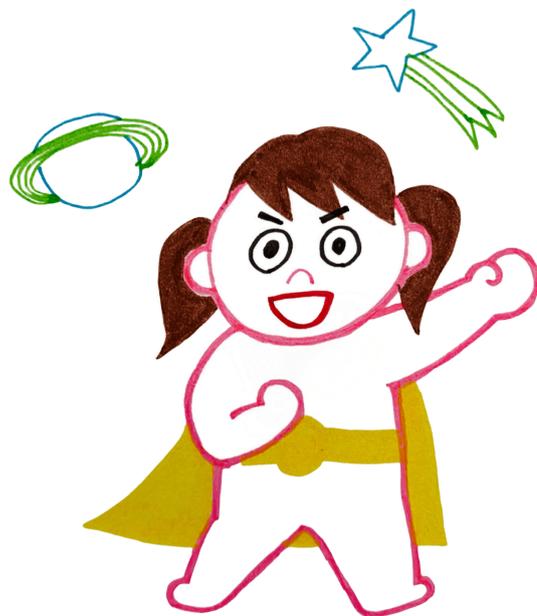


# C アイデンティティの形成ニーズ

独自のアイデンティティを築くために、子どもは自分の家系や世代のつながりの中に自分を位置づけることができる必要があります。

アイデンティティはまた、子どもが所属するグループやつながりを通じても成立します。家族だけでなく、同年代の仲間の集団に属することによっても形成されます。

子どもは、自分のアイデンティティのさまざまな要素がまわりに認められることを必要としています。例えば、性別、性的指向、国籍、宗教や信念、文化的アイデンティティ、個性などです。



## 全員について考えるべきこと

---

- 子どもは自分の家族の歴史にアクセスできているか？自分の歴史やルーツを知っているか？
- 家族の中に秘密や話されていないことがあるか？
- 子どもは自分の過去について知ることができているか？養子や里子、生みの親と住んでいない場合、その理由を知っているか？
- 子どもは離れて住む親、その親戚に会うことができているか？
- 子どもは自分のルーツを探しているか、探そうと考えているか？
- 片方の親が亡くなった場合や離別した場合、もう一方の親は子どもにそのことを話しているか？子どもの質問に答えているか？その際、どのようなイメージを伝えているか？
- 子どもが生みの親と暮らしていない場合、生みの親の歴史を知っているか？生みの親のことを話す機会があるか？
- 子どもは自分の家族や親戚に対して帰属意識を持っているか？
- 子どもは同年代の仲間のグループに属しているか？属していないときは、仲間との関わりを求めているか？
- 子どもはきょうだいや両親とどのような関係性を築いているか？
- 子どもは自分自身についてポジティブなイメージを持っているか？それとも否定的な表現をするか？
- 子どもは自分の家族についてポジティブなイメージを持っているか？
- 両親は子どもについてポジティブな表現をし、評価しているか？子どもは両親から評価されていると感じているか？
- 子どもは家族から唯一無二の存在として認められているか？(比べられていないか)
- 子どもは理想や価値を自分で探し求めているか？それらを自由に選んでいると感じているか？(自分にとって大切なことを探し考えているか？自分が好きなこと、自分の考え、正しいと考えることなど。家族や友達と違っても、自分自身の考えや好みがあっというと感じているか？)
- 子どもは将来（進学、就職、家庭など）についてどのように想像しているか？

# D 自尊心と自身の価値を認められること

自尊心とは、子どもが自分自身について持つ認識です。自分に価値があり、自分は大切な存在で、自分は愛される価値があり、尊重されるべきだと感じているか。

この自分に対する信頼感は、身近な大人との関係性の中で形成されていきます。特に、大人が子どもに、間違いをしたり子どもが困難な状況があっても、ありのままで認めていると伝え続けていることが大事です。親や、子どもが信頼する人が子どもに対して、無条件で子どもの価値を認め、支え続ければ、子どもの自尊心は強化されていきます。そのような環境で育った子どもは挑戦することの勇気が育ち、失敗したり逆境を経験しても乗り越えられる力を身につけ、自分には可能性がある、力があるという自信と安心感を持ちます。

子どもは自分を信頼するために、肯定的な自己イメージを持つ必要があります。それは、能力の自覚や自分の好みや選択を主張する力と関連しており、年齢を重ねるにつれて将来の進路を描く力、共感力や安定した人間関係を築く力、そして自己管理能力へとつながっていきます。



## 子どもや若者の自己認識について：

---

- 子どもや若者は、自分自身についてポジティブなイメージを持っているか？それとも頻繁に自分を否定するような表現をするか？
- ポジティブな状況（成功した時）やネガティブな状況（失敗した時）両方において、自己肯定感を表す行動を示しているか？
- 子どもや若者は、自信を持っているか？
- 自分が他者にどのような印象を与えているか気にしているか？（自分自身や自分の身体をケアしているか？子どもはどのように自分の痛みやつらさを表現しているか？自傷行為などのリスク行動があるか？）
- 子どもは自分と、自分の物のケアをしているか？（身体の清潔さ、医療へのアクセス、部屋の片付け、掃除、持ち物の手入れ）
- 認められたい、評価されたいという動機についてどうか？（適応しすぎていないか？殻に閉じていないか？他の人を喜ばせたり、他の人の注意を引くことが優先されていないか？いつも努力し続けなくても自分には価値があると感じられているか？等）

## 子どもやティーンの実現でき、主張でき、将来への展望が持てる能力

---

- 子どもや若者は、自分の好みや選択を主張できているか？（家族に対して、仲間やグループの中で、教育スタッフの前で）
- 子どもは、疑いや不安、怖さを表現できるか？また、それが真剣に受け止められ、ジャッジされずに聞いてもらえているか？
- 子どもや若者は、将来についてのイメージを持てているか？（進学や就労の計画、自身が築く家庭生活の想像など）
- 子どもや若者は、活動やプロジェクトに取り組んでいるか？それとも失敗を恐れる面があるか？
- 子どもは、間違える権利、失敗する権利、そして選択する権利を保障されているか？保障されていると感じているか？
- 子どもや若者は、嫌な状況や困難な状況に直面した時に、自分の感情を整理し分析し解決できているか？
- 子どもや若者は、安定した人間関係を築くことができているか？
- 子どもは、自分が成功し、新しいタスクや活動、新しい挑戦に取り組む力が自分にはあると感じているか？